自治体参加第1号の東大阪市
2年で10万点 人手が悩み

世話役の中尾さん 意義と楽しさ広めたい

自治体として全国で初めて2015年3月からベルマークの収集に取り組み始めた大阪府東大阪市。郵便局などの協力も得て、この2年間で累計10万点を超えるマークを集め、地元の学校と東日本大震災の被災校へ寄贈してきました。仕分けと計算の実務を担う市職員のボランティアグループ「ベルの会」は、「『無理なく、無駄なく、根気よく』のベルマーク精神で、市民の間に運動の輪をさらに広げていきたい」と意欲的です。

市は、ベルマーク運動が誰でも気軽に取り組めるボランティア活動であることに注目しました。地域活動やコミュニティーづくりへの市民の関心を高めることにつながる効果を期待して、運動への参加を決めました。

地域活動の拠点である市内7カ所のリージョンセンターと市役所本庁舎内に収集箱を置き、広報誌や市のホームページで市民にマークの収集を呼びかけてきました。15年8月からは、市と近隣の八尾、柏原両市にある90の郵便局でつくる河内中部地区郵便局長会も収集に協力しています。

集まったマークの仕分けはベルの会が引き受けています。仕事の都合で間が空くこともありますが、1～2カ月に1回を目標に作業を重ねています。

今年7月3日までに仕分けしたマークは約4万6千枚で、総計10万6千点ほどになります。このうちの半分を市内にある公立の小中学校と幼稚園、特別支援学校に順番に寄贈し、残る半分をベルマーク財団を通じて東日本大震災の被災校支援に充てています。

ベルマーク運動に参加した当初から市協働のまちづくり部の部長として関わり、ベルの会の世話役を務めてきた中尾悟さん（58）＝現・監査委員事務局長＝によると、仕分け作業時には、多い時で3千枚、少ない時でも1千～1500枚ぐらいのマークが集まっているそうです。「市役所内では、自分の職場があるフロアでマークを集めて持ってきてくれる職員もいます。派手な活動にはなっていないけれど、市民や職員にそれなりに関心を持ってもらい、地道に取り組んでいるという感じでしょうか」

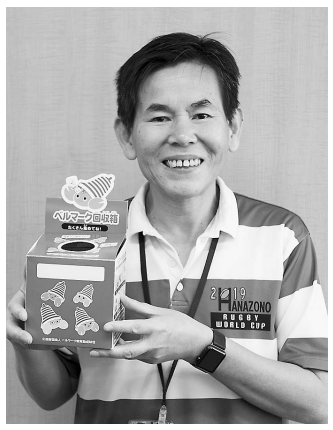
「ベルの会」の悩みは、「作業の人手が足りないこと」です。当初は7～8人が参加していましたが、異動や家庭の事情もあってレギュラーメンバーが減り、仕分けが追いつかない状態なのだそうです。

「全国の自治体に先駆けて始めたベルマーク収集の試みを、継続的に発展させていくためにも、3年目の今年は、ボランティアの意義や楽しさを積極的にPRして担い手を増やしていきたいですね」と中尾さんは話します。

着ているのは、東大阪市も会場になっている2019年のラグビーワールドカップ日本大会を盛り上げようと、職員らがクールビズに合わせて着用しているラガーシャツです。

◇

ベルマーク運動の新しい流れとして、自治体では兵庫県三木市が15年7月から、愛知県豊橋市が16年4月から、それぞれベルマーク運動に取り組み、市民にマーク収集を呼びかけています。



「ベルマーク運動を地域でのコミュニティーづくりにつなげたい」と話す中尾悟さん

東大阪市　市花園ラグビー場は「ラグビーの聖地」として知られる。国内有数の中小モノづくり企業の集積地でもある。人口約50万人は、大阪府で3番目。1985年、非核「平和都市」を宣言。

ミズノ財団が100万円
47年連続「続けることが大事」

協力会社のミズノが設立した公益財団法人ミズノスポーツ振興財団（会長＝水野明人ミズノ社長、東京都千代田区）が4月20日、ベルマーク財団に100万円を寄付しました。1971年から47年連続です。財団事務所を訪れた内橋悟事務局長が「毎年、同じ額ですが、続けることが大事だと考えています」と切り出すと、財団の中島泰常務が「本当に長く、ずっと続けていただいて、ありがたい」と感謝を述べました。

目録が手渡された後、人々を感動させるスポーツの力について話がはずみ、ベルマーク預金を使ったお買い物でも、ラグビー日本代表がワールドカップで活躍した後はラグビーボール、リオ五輪後は、女子団体の銅メダル効果か、卓球台に人気が高くなったことを中島常務が披露すると、「やっぱりスポーツの力は大きいですね」と内橋事務局長が応じました。リオ五輪で銀メダルを獲得した男子400㍍リレーの第二走者・飯塚翔太選手はミズノ所属で、リレー4選手のスパイクがそれぞれ違うメーカーだったことも話題になりました。

ミズノスポーツ振興財団は、70年設立のミズノスポーツ振興会と、77年設立のミズノ国際スポーツ交流財団の2財団が合併し、公益財団法人に移行しました。スポーツ振興とスポーツを通じた国際交流の発展を目指しています。

24万7千点をナックが寄付

住宅、ダスキン、宅配水を提供するナック（本社・東京都新宿区）が、今年もベルマーク24万7千点を寄贈しました。2009年から毎年、財団を通じてへき地や被災地の子どもに贈っています。今年は240拠点、約2100人の従業員が1年かけて集めました。もっとも多い「レオハウス松山店」は1万1千点を集めて、同社がトロフィーと感謝状を贈りました。

6月20日、ビジネスサポート本部部長でCSR顧問の小岸良昭さん（写真左）と、建築コンサルティング事業部所属でCSR委員長をつとめた津村牧人さんが財団にマークを届けてくれました。

業務時間外で続けるボランティア「ちょいボラ（ちょっとボランティア）」も積極的に活動しています。地域清掃や中古DVD、古本の収益を赤十字に寄付し、古切手収集もしています。昨年「封筒に不要なものを何でも入れて下さい」と呼びかけたところ、3カ月で39万件、金額にして約250万円もの寄付が生まれたそうです。障害者施設で作ったお菓子をオフィスの有料置き菓子とポ

キヤノン2社が20万円
10年連続

協賛会社のキヤノンマーケティングジャパン（ベルマーク番号19）とグループ会社のカスタマーサポートが4月21日、「被災地支援に役立ててください」と20万8800円をベルマーク財団に寄付しました。2社の社員が1年間、社内や家庭で集めた使用済みインクカートリッジ、トナーカートリッジを金額に換算しました。寄付はこれで10年連続です。

キヤノンマーケティングジャパンの渡辺徹CSR本部長、沢田泰一プリンティングソリューション企画本部長、笠嶋太CSR本部課長、澤田創プリンティングソリューション企画本部課長の4人が財団を訪れ、渡辺本部長が財団の中島泰常務理事に目録を手渡しました。

沢田本部長が「一番多いカートリッジ回収がベルマーク運動からです。リサイクルに貢献していただき感謝しています」と話しました。中島常務は「規模の小さな学校でも始められるベルマーク運動として、これからもカートリッジ回収を推奨していきたい」と答えました。

帝国ホテルが4万点
従業員が集計、熊本4校へ

帝国ホテル東京（千代田区）の従業員が集めたベルマーク4万点を熊本地震で被災した、熊本県上益城郡の七滝中央小学校、広安小学校、広安西小学校、益城中学校の4校に1万点ずつ寄贈しました。社会貢献活動として、2009年から共有スペースや各部署にベルマーク回収箱を置いて、従業員が家庭から持ち寄る分と、ホテルが購入した飲料や砂糖についているマーク、インクカートリッジなどを集めました。定期的に夜間に1時間半ほど休憩室に集まって集計しました。

「社内で続けている東日本大震災で被災された学校へのマーク寄贈と同じに考えています。今後も期限を設けずベルマーク収集を続けていくつもりです」と企画部の柳生大輔さんは話しました。

PTAの負担にならないように整理、集計されたベルマークは、寄贈された4校からも、ホテルらしい「行き届いた心づかいに感謝します」とお礼の言葉が寄せられています。

友愛援助 9事業を募集
子どもたちの教育環境整備に

世界には紛争や貧困、自然災害によって厳しい状況におかれ、教育を受けられなかったり、飢えに苦しんだりしている子どもが大勢います。何かできることはないだろうか。そんな声にこたえて始まったのが、ベルマーク運動の「友愛援助」です。ベルマーク預金を直接、寄付にあてる仕組みで、1998年にスタートしました。20回目となる2017年度は9事業を募集します。東日本大震災援助以外の海外8事業は子どもたちの教育環境の整備や充実のための活動実績がある団体に資金を委託します。

金額は問いません。複数事業への寄付も歓迎します。申し込み・問い合わせはベルマーク教育助成財団「友愛援助」係（電話03・5148・7255、ファクス03・5148・7256、メールtoiawase@bellmark.or.jp）。2018年1月31日まで受け付けます。東日本大震災被災校援助は、締め切りがありません。

【対象事業】（）内は実施団体

①東日本大震災被災校援助（ベルマーク財団）
②アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動（ジョイセフ）
③ラオスでの学校図書室開設プロジェクト（ラオスのこども）
④フィジーの子どもたちの植林・環境教育支援「子供の森」計画（オイスカ）
⑤東ティモールの小中学校での学校保健プロジェクト（シェア）
⑥ミャンマー難民キャンプにおける図書館を通じた教育支援事業（シャンティ国際ボランティア会）
⑦アフガニスタン寺子屋プロジェクト（日本ユネスコ協会連盟）
⑧マダガスカル共和国における学校給食プログラム（国連世界食糧計画WFP協会）
⑨カンボジアでの障がいのある子どもたちへの支援（日本ユニセフ協会）

エッセイ書いて途上国に給食を
国連WFP協会

あなたの書いたエッセイが、途上国の学校給食に役立てられます。ベルマーク財団の「友愛援助」対象事業の一つ、「マダガスカル共和国における学校給食プログラム」を実施する国連WFP（World Food Programme）協会がエッセイコンテストの作品を募集しています。応募1作品につき、給食4日分が寄付協力企業から協会に寄付され、学校給食支援に役立てられます。テーマは「おなかいっぱい幸せごはん」。食に関する体験や出来事を自由につづってください。審査委員長は音楽評論家・作詞家の湯川れい子さん、特別審査員に女優の広瀬すずさん、協会の親善大使で女優の竹下景子さん、同じくプロスキーヤーの三浦雄一郎さんと審査委員会審査員4氏。9月8日必着。詳しくは専用サイト（http://www.wfpessay.jp/2017/）で。

「教育応援隊」3事業募集締め切りました

ベルマーク新聞4月新学期号で「教育応援隊」として募集しました、「ミズノ・スポーツ教室」（走り方・サッカー）は、実施校数に達したため募集を締め切りました。「ベルマーク版オーサー・ビジット」、「絵本を届ける運動」も6月末日に締め切りました。多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

一緒に販売するといった新しい試みも取り入れています

ベルマークは、学校で集めている子どもがいる家庭以外は「1人1枚以上」を目標に、社内掲示板にチラシを貼ったり、自作の回収箱を作って配布したりと取り組んでいます。ほぼ全支店の自動販売機にキリン生茶を入れて、脇にハサミと回収箱を設置するアイディアは社員から生まれたそうです。

取引先の飲食店とのコミュニケーションにも役立っていて、「ドレッシングやもやし等、お店で使ったベルマークをとっておいてくれる企業もあります」と小岸さん。

津村さんは「少しずつ社員にベルマークが浸透していると感じます。これからもベルマークを通じて社会貢献に取り組みたい」と話しました。

マークでお買いもの この会社から

内田洋行　ミュージックベル、マルチひな段、車椅子、展示板、教材提示装置、テント、防犯用品、鉛筆削り、朝礼台、書庫、保育用品、ノート・鉛筆など消耗品

エルモ社　ユニット型電子黒板、マグネットスクリーン、モバイルプロジェクター、書画カメラ＝実物投影機、他エルモ視聴覚製品

加賀ソルネット　望遠鏡・双眼鏡、ラミネーター、デジタルカメラ、拡大機、スクリーン、シュレッダー、プリンター、メガホン、鉛筆削り、防犯ブザー、プロジェクター、家電製品など

セイコークロック　電波時計、ソーラークロック、屋外防雨型掛時計、ストップウオッチ、振り子メトロノーム、キッチンタイマーなど

セイコータイムシステム　学校用屋外時計（壁掛型、両面ポール型）、スポーツカウンター、プログラムタイマー付時計など

セノー　ゲームベスト、ボール各種、マット、サッカーゴール、プール用品、身長計、体重計、屋外遊具、屋外テント、横断幕、得点板、卓球台、一輪車、とび箱、竹馬、ドッヂビーなど

第一電子　コピー機、印刷機、パソコン、プリンター、紙折機、防災セット、デジカメ、書籍全般、学校用管理システムソフト（図書・保健）など

東芝エルイーソリューション　ウオータークーラー、空気清浄機、CDラジカセ、テレビ、DVDプレーヤー、乾電池、冷蔵庫、洗濯機、懐中電灯、電子レンジ、高圧洗浄機など

東通産業　テレビ、扇風機、デジタルビデオカメラ、プリンター、ウオータークーラー、CDラジオカセット、液晶プロジェクター、パソコン、トランシーバーなど

日教販　児童図書、図鑑、辞典・事典など書籍類全般、パソコン用ソフト、DVDソフト、ビデオソフトなど

ブリヂストンサイクル　カラフル一輪車、競技向け一輪車、一輪車用保管スタンド、一輪車練習スタンド、キッズプロテクター、ヘルメットなど

ミズ・コーポレーション　一輪車、一輪車練習用手すり、一輪車収納スタンド、竹馬、卓球台、ボールカゴ、ライン引き、リバーシブルボード、カラーコーン、ゲームベストなど

ミズノ　ユニフォーム、集会用テント、学童用白衣、横断幕、マーチング用品、トレーニング用品、運動会用品、ニュースポーツ用品、野球・ソフトボール用品、各種ボール、一輪車、和太鼓、防犯用品など

ヤマハミュージックジャパン　ピアノ、オルガン、キーボード、和楽器、メトロノーム、譜面台、マーチング・パレード楽器・用品ほかヤマハの楽器全機種

ライブ　ベルマーク整理棚、トロフィー、優勝カップ、折りたたみテーブル、綿菓子機、スリッパ、傘、耕運機、暖房器具、保育用品、キャスター付ボード

協力会社15社（五十音順）

お買い物の要領

①お買い物ができるのは協力会社（15社）からだけです。学校出入りの業者や近くの商店から買うことはできません。詳細は4月と10月にお届けする「お買いものガイド」の最新版をご覧ください。
②消費税は本体価格（税抜き価格）の90％にかかります。購入するための預金があるかどうか、預金残高をベルマーク財団へ問い合わせ、ご確認ください。なお、足りない場合でも、原則購入金額の半額まで預金があれば現金を加えて購入いただけます。
③注文する時は所定の注文書で。注文先の会社ごとに1部ずつ記入して、まとめて財団へ送ってください。注文書は財団へ請求するか、ベルマークのホームページからもダウンロードできます。電話や所定の注文書以外のものでは受け付けられません。
④注文書には、注文先の協力会社名、商品名、品番、価格、数量、そして学校（団体）名や所在地、PTA番号などを記入。注文主は学校（団体）長ですから、校長先生（団体長）のお名前と学校印（公印）がないと手続きがとれません。
⑤注文された商品が届くのとほぼ同時に、「着荷通知書」も届きます。大切なハガキです。商品を点検した上で、協力会社へ返送してください。

――――注文書の送り先――――
公益財団法人 ベルマーク教育助成財団
東京都中央区築地 5-4-18 汐留ｲｰｽﾄｻｲﾄﾞﾋﾞﾙ7F(〒104-0045)